

沖縄キリスト教学院大学FD委員会
(編・著)

2015年度 前期

学生による授業改善アンケートと
改善に向けての取り組み

巻頭言

第1章 授業改善アンケート結果の概要

第2章 科目・クラス別の数値及び自由記述

巻頭言

2015年度 前期

学生による授業改善アンケートと改善に向けての取り組み

沖縄キリスト教学院大学

学長 中原 俊明

- 1,この度、2015年度前期の学生による授業改善アンケートと改善に向けての取り組みというタイトルの下で、報告書がまとめられた。今回は、14年度に実施した質問事項の追加（21 から 29 へ）や表題の「授業評価アンケート」から「授業改善アンケート」への変更などを踏襲しつつ、形式内容ともに充実への意気込みがうかがわれる。多忙なスケジュールを割いて、この企画と実施に参加された教員及び事務職の皆さんに深く感謝したい。
- 2,全体を通読して、感じたことを次に記す。第 1 に、授業評価といえ、学生から教員に向けられるという従来のパターンに加えて、学生自身がいわば「対自的」にこれをなすという仕組みが加わった点は興味深い。第 2 に、授業の総合評価では、授業を数値で総合的に評価することで、教師のひとりよがり避け、自己管理を可能にするメリットは大きいに違いない。第 3 に、新しい試みとして記述方式による評価（質問 27-29）を導入したのも、数値とは異なる局面がみえ、きっと有益な成果に結びついたはずである。第 4 に、学生たちの授業への取り組みに関し、クラスへの出席状況や受講態度も良好な数値（7割台）を示しているが、授業外での学習や発展的な取り組みでの低い数値に今後の課題がみえる。教室の内外でのコンスタントな学習姿勢への誘導が必要である。
- 第 5 に、教員の授業準備や成績評価基準への評価数値の高さも注目される。第 6 に、宿題の量、成績評価基準の明確さ、授業からの収穫などでほぼ 7割台が肯定的であり、並べて好反応といえよう。さらに授業を受けての満足度では、80%に達し、本学での教育の成果として一定の評価に値しよう。
- 3,自由記述部分の内容では、特に前述のように、14年度から授業内容を前提にして「教員が用意した質問欄」が登場したが、今年度は、それがさらに充実強化されていると思われる。今後とも経験と工夫を重ねることで、十分にその存在意義を高めることが期待される。
- 4,現存の教育の仕組みの中で、学生たちが、授業評価の意味や、向き合うべき姿勢などについてどの程度学習して臨むのか、十分に了知しているわけではないが、欧米あたりでは、高校までの教育制度の中で、批判精神（critical spirit）に立つ判断力が醸成されていく、と聞く。この国でも、折角の制度を生かすために、この面の問題意識を大学教育の課題の中にきちんと位置付けるべきであろう。

沖縄キリスト教学院大学
FD委員会委員
(2015年度 前期)

中原俊明 (委員長・学長)
金永秀 (委員・人文学部長)
Christopher Valvona (委員・英語コミュニケーション学科長)
金城繁正 (委員・企画推進課課長)

執筆者
Christopher Valvona (英語コミュニケーション学科長)

沖縄キリスト教学院大学

2015年度 前期

学生による授業改善アンケートと

改善に向けての取り組み

第1章

学生による授業改善アンケート結果の概要

はじめに

2014年度前期より、授業評価アンケートを大幅にリニューアルした。変更点は多岐にわたるが、なによりも重要なのは、理念の上で、授業評価アンケートが教員の授業改良の参考資料となるよう、工夫をほどこした点である。つまり、学生による授業評価が教員管理に流用されることなく、教員自身の自己管理、自己研鑽の材料となるように留意している。また、学生たちとともに授業を創るという理念のもと、学生へのリプライを行うことで教員が学生とともに授業改善を行えるようにしており、名称も従来の「授業評価アンケート」から「授業改善アンケート」に変更した。具体的な変更点は以下の通りである。

- ①質問項目が大幅に増え、授業改良に資する項目が増えている。全体で従来の21の質問項目から29の質問項目へ増やし、「履修動機についての質問」「学生自身の授業への取り組み」「授業への評価」「授業から得られた達成度」「総合的評価」「記述回答」の6つのカテゴリーに分けた。各教員がそれぞれに、また、学部全体として、アンケート調査を分析的に検討しやすいようにした。
- ②従来、13～14週目の講義終了間際の10分間に行っていたが、授業開始直後15分を使用する。教員はアンケート実施中に退席することなく、学生の真剣な取り組みを促す。学生にとっては、「ふりかえり」という教育的な意義があり、教員の側としては、しっかりと記述回答の時間を学生に保障し、よりよい改善のための資料を得ようとする意図がある。
- ③授業改善アンケートの数値的評価、記述によるコメントは、各授業ごとに、学内HPで公表し、担当教員の改善に向けてのコメントを付す（コメントは200字以内）。アンケート結果の具体的な公表とそれへの教員のコメントを目にすることで、学生たちは、自らのコメントが授業改善に生かされることを自覚し、より真剣にアンケートに答えることになるであろう。また教員は、自らの授業への説明責任を果たす機会を得ることができる。さらに公表された授業改善アンケートはシラバスとともに次学期以降の学生の授業選択の材料となる。

リニューアルした質問項目の意図を以下に説明する。

履修動機について（質問 1）

この質問は、「履修者数」「回答者数」と照らし合わせて、当該クラスの履修者の状況を把握することが目的である。授業者が個々の質問項目への回答を検討する際に必要なデータとなる。具体的には次のような質問である。

質問1 履修動機 3つを選択せよ

①授業内容に関心があったから ②教員に魅力があったから ③単位がとりやすそうだから ④友だちが多く履修しているから ⑤自分の専門に関係が深い分野だから ⑥幅広い教養を身につけるため ⑦先輩に勧められたから ⑧希望授業

が取れなかったので仕方なく ⑨必修（あるいは免許取得に必要）だから
⑩その他

I. 学生自身の授業への取組（質問2～6）

従来の授業評価アンケートは、教員の授業を学生が評価する、という意味合いを有していた。しかし、授業とは教員と学生とがともに創り上げるものであり、学生自身の取り組みもまた自省されなくてはならない。また、どれほど積極的な学びを促すことができたかを教員は確認しなくてはならない。具体的には次のような質問を用意した。質問のあとに選択肢が示されていない限り、「①そう思わない ②あまりそう思わない ③どちらともいえない ④そう思う ⑤大いにそう思う ⑥質問がこの授業に該当しない」という評価である。

質問2	欠席回数	(①4回以上 ②3回 ③2回 ④1回 ⑤皆出席)
質問3	真面目に授業参加	
質問4	事前準備	
質問5	発展的学習	
質問6	週平均の授業時外学習時間	(①ほぼ0時間 ②1時間未満 ③1～2時間 ④2～3時間 ⑤3時間以上)

II. 学生による教員への授業評価（質問7～19）

この質問群では、狭義の授業評価アンケートといえるもので、教員の授業技術、方法、内容などの具体的な事柄を問うており、教員は改善点を見出すことができる。具体的には次のような質問を用意した。

質問7	聞きやすい話し方	
質問8	各回の授業内容の量が適切だった	
質問9	各回の授業内容は明確だった	
質問10	授業を乱す行為への対応	
質問11	教科書は妥当であった	
質問12	補助教材は効果的であった	
質問13	板書の仕方（パワーポイントなど）	
質問14	講義法以外の教授法（討論・発表など）	
質問15	教員の授業準備	
質問16	宿題・課題など	(①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる)
質問17	クラスの規模（受講学生数）	(①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる)
質問18	成績評価の基準の明確	
質問19	授業実施教室は適切か	

III. 授業を受けて得たもの（質問20～22）

この質問群では、学生がこの授業をうけて得たものを確認している。学生の達成度に関わる質問である。また、大学の授業において、学問的知識、専門的な知識、新し

い考え方などを獲得することは重要であり、分かりやすい授業を目指すと同時に、高い専門性等を維持することが大学の教員には求められている。以下の質問項目を用意した。

質問 20 新しい考え方・発想／能力の向上
質問 21 基本的な専門知識
質問 22 意見をまとめて他者に伝える技術

IV.授業の総合的な評価（質問 23～26）

この質問群では、これまでの質問群を踏まえたうえで、授業の総合的な評価を行う。数値による総括的な評価である。しかし、ここで留意しなくてはならないことは、数値による授業評価が、教員評価、教員管理に容易に流用されかねない恐れである。大学の授業は、学生に分かりやすく行われるべきものであるが、それと同時に学問的・専門的知見に基づき行われるものである。学生に対して迎合的であってもいけない。あくまでもこの種のアンケートは教員個々人の授業改善を目的にして行われるべきであり、各教員の自省と研鑽と自己管理の材料として活用されるべきものである。その意味で、次の「記述による評価」と合わせて検討されるべきものである。具体的な質問項目は次の通りである。

質問 23 この授業で、自分自身が成長できた
質問 24 学問的・専門的興味をかきたてられた
質問 25 わかりやすい授業だった
質問 26 この授業を受けて満足した

記述による評価

数値による評価は比較を行う際や、全体を俯瞰する際には有効であるが、記述による評価の方が、授業改善には有効である。学生たちに、記述をより具体的に行ってもらえるように、アンケート時間を10分から15分に伸ばし、授業終了後から授業開始直後に行うようにした。ひとつひとつのコメントを丁寧に検討し、授業改善につなげていただきたく、具体的には以下の質問項目を用意した。

質問 27 この授業で良いと思ったこと
質問 28 この授業で改善すべきだと思った点
質問 29 教員が用意した質問

このような授業改善アンケートを全78科目、106クラスにおいて実施した。投与された評価表は2589件に上った。

1 学生による授業改善アンケート結果の概要

授業改善アンケートは、基本的に各教員と生徒たちの対話に基づく授業改善の材料を提供するものである。よって各教員の検討と分析が求められるものである。その内容に関しては、「記述による評価」や「授業改善アンケートへの教員コメント」を参照いただきたい。

しかし、数量的なデータを俯瞰することにより、学部全体での課題がみえてくるものでもある。全体的な統計にそぐわない質問項目もあるが、全体の平均値や、選択肢の選択率を示し、若干の考察を加えたい。

質問項目	度数	平均値
質問1 履修動機(3つまで) (①授業内容に関心があったから ②教員に魅力があったから ③単位がとりやすそうだから ④友だちが多く履修しているから ⑤自分の専門に関係が深い分野だから ⑥幅広い教養を身につけるため ⑦先輩に勧められたから ⑧希望授業が取れなかったのでは仕方なく ⑨必修(あるいは免許取得に必要)だから ⑩その他)	6144	-
質問2 欠席回数 (①4回以上 ②3回 ③2回 ④1回 ⑤皆出席)	2559	3.40
質問3 真面目に授業参加	2553	4.15
質問4 事前準備	2574	3.81
質問5 発展的学習	2572	3.66
質問6 週平均の授業時外学習時間 (①ほぼ0時間 ②1時間未満 ③1~2時間 ④2~3時間 ⑤3時間以上)	2572	-
質問7 聞きやすい話し方	2574	4.33
質問8 各回の授業内容の量が適切だった	2583	4.35
質問9 各回の授業内容は明確だった	2572	4.33
質問10 授業を乱す行為への対応	2554	4.34
質問11 教科書は妥当であった	2572	-
質問12 補助教材は効果的であった	2569	-
質問13 板書の仕方(パワーポイントなど)	2495	4.25
質問14 講義法以外の教授法(討論・発表など)	2566	-
質問15 教員の授業準備	2556	4.42
質問16 宿題・課題など (①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる)	2571	3.06
質問17 クラスの規模(受講学生数) (①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる)	2579	3.05
質問18 成績評価の基準の明確	2569	4.16
質問19 授業実施教室は適切か	2573	-
質問20 新しい考え方・発想/能力の向上	2564	4.18
質問21 基本的な専門知識	2564	4.14
質問22 意見をまとめて他者に伝える技術	2555	-

質問 23 この授業で、自分自身が成長できた	2561	4.18
質問 24 学問的・専門的興味をかきたてられた	2564	4.12
質問 25 わかりやすい授業だった	2563	4.23
質問 26 この授業を受けて満足した	2563	4.28

上記の表では、設問毎の平均値等を掲げた。質問 6、質問 1 6、質問 1 7 の選択肢は表中に記した。それ以外の選択肢は、「①そう思わない ②あまりそう思わない ③どちらともいえない ④そう思う ⑤大いにそう思う」である。質問 1 1、質問 1 2、質問 1 4、質問 2 2 には「⑥質問がこの授業に該当しない」の選択肢が付加されている。平均値を表すのに不適切な質問 1、質問 6、質問 1 1、質問 1 2、質問 1 4、質問 2 2 には表中に「－」を記入した。

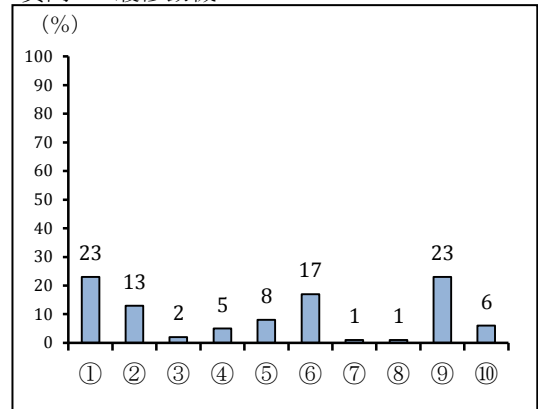
また、以下に各質問の選択肢の選択率のグラフを示している。比率の表記は少数点第一位を四捨五入した形で示し、また、欠損値を除いた有効パーセントで示している。

履修動機について（質問 1）

質問 1 この授業を履修した動機を最も適切なものを3つ選択して下さい。

- ①授業内容に関心があったから
- ②教員に魅力があったから
- ③単位がとりやすそうだから
- ④友だちが多く履修しているから
- ⑤自分の専門に関係が深い分野だから
- ⑥幅広い教養を身につけるため
- ⑦先輩に勧められたから
- ⑧希望授業が取れなかったので仕方なく
- ⑨必修（あるいは免許取得に必要）だから
- ⑩その他

質問 1 履修動機



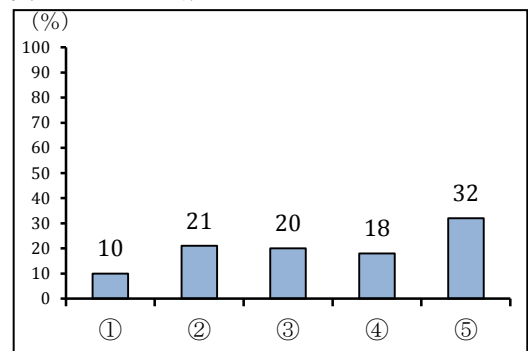
履修動機について、最も多いのは「①授業内容に関心があったから」（23%）と「⑨必修（あるいは免許取得に必要）だから」（23%）であり、「⑥幅広い教養を身につけるため」（17%）、「②教員に魅力があったから」（13%）とつづく。主な履修理由は学習者の主体的な意欲が示される動機が示されるもの（①授業内容に関心、②教員の魅力、⑤専門に関係が深い分野、⑥幅広い教養を身につけるためなど）が計61%と占め、その他の理由（⑨必修だから）を含むより消極的な理由（③単位がとりやすそう、④友だちが多く履修しているから ⑦先輩に勧められた、⑧希望授業が取れなかったなど）は計32%と低く、過半数以上の学生は積極的な姿勢での授業選択がなされていることがわかる。2014年度入学生（現1年次生）以降、学生の授業選択の自由度が増したカリキュラムが導入されていることもあり、今後も選択理由の変化が注目される。

I. 学生自身の授業への取組（質問 2～6）

質問 2 授業全体を通じての欠席回数は何回くらいですか。

- ①4回以上
- ②3回
- ③2回
- ④1回
- ⑤皆出席

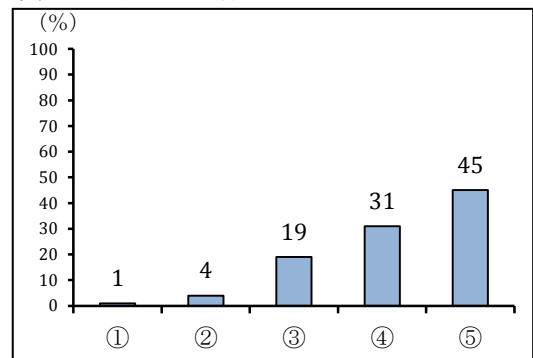
質問 2 欠席回数



質問3 私語・居眠りなどせずに真面目に授業に参加した。

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

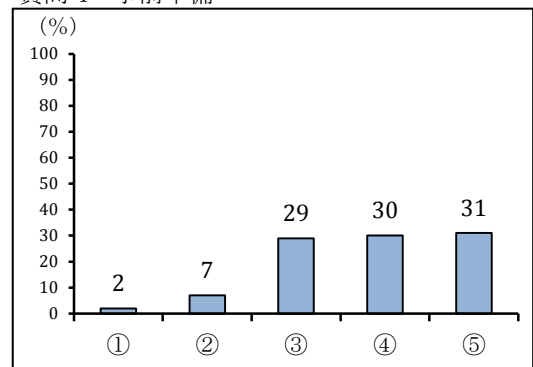
質問3 真面目に授業参加



質問4 この授業の履修にあたって十分な準備ができていた（どのような授業か調べて履修したか、自分の学力レベルにあっているかを確認したか、など）

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

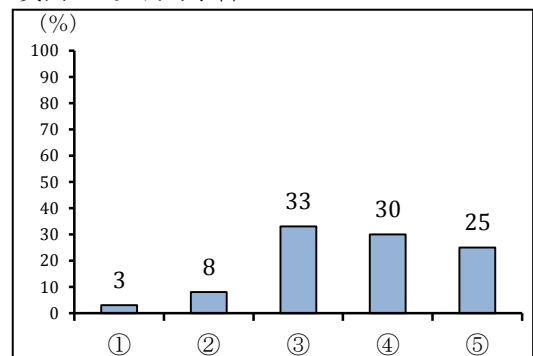
質問4 事前準備



質問5 授業をきっかけにして自分自身で発展的な学習をした

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

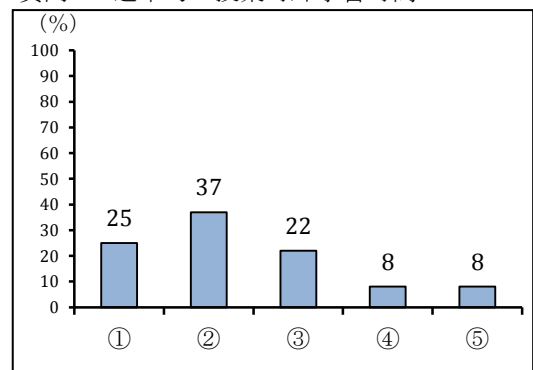
質問5 発展的学習



質問6 この授業に関連して、授業時以外に学習した時間（平均して1週間で）

- ① ほぼ0時間
- ② 1時間未満
- ③ 1～2時間
- ④ 2～3時間
- ⑤ 3時間以上

質問6 週平均の授業時外学習時間



質問2の欠席回数に関しては、「⑤皆出席」が32%とトップで、「②3回」、「③2回」、「④1回」は共に20%前後、一番少ないのは「①4回以上」で10%という数値になった。調査実施の13週および14週目でこの数値なので、15（16）回終了時点で若干の増加の可能性があるが、皆出席の学生が最も多い事は評価すべきである。しかし、1回～3回欠席したと答えた数を合わせると60%弱にもなるので、数回休んだくらいではかまわないと思っている学生が過半数以上いる事も確かだ。他に考慮すべき事はこの結果には週2回行われる講義も含まれており、その場合は計30回前後出席するので、週1回行われる講義と一緒に集計しまとめるのは困難である。

質問3の真面目に授業参加は、「⑤大いにそう思う」（45%）、「④そう思う」（31%）といった肯定的評価が76%を占めている。また、質問5の発展学習を行ったかについても、「⑤大いにそう思う」（25%）、「④そう思う」（30%）を合わせると55%と過半数を超えている。これらより、学生自身による授業姿勢への高い評価が確認できる。しかし、午前中の授業への遅刻が目立つという報告もあることから、実際の授業姿勢はデータほど高いものか疑問も残る。

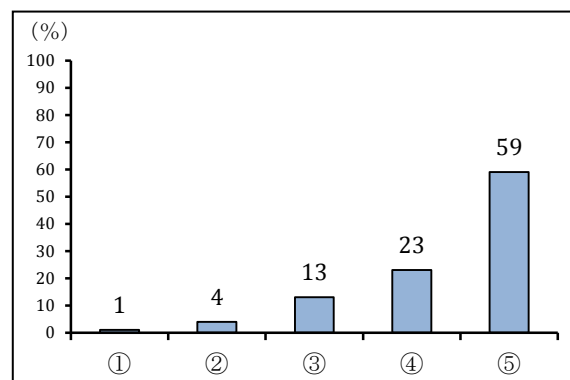
さらに、質問6の週平均の授業外の学習時間をみると、このような学生自身の自己評価が妥当なものであるかが疑わしく思われる。授業以外での学習時間が「①ほぼ0時間」の学生が25%、およそ4人に1人おり、「②1時間未満」（37%）とあわせて60%近くを占めている。昨年に続いて学習者の必要授業学習時間は十分とはいえない。1コマ90分の授業に対し週に約3時間の授業外学習が前提とされているが、それをクリアする学生は、8%（「⑤3時間以上」）であり、1割にも満たない。半数以上の学習時間が1時間未満であるという数値はきわめて低い。

これらを合わせ総括すると、学生自身による授業態度の自己評価は高いものの、予習・復習・発展的な学習の時間的な裏付けを欠いたものであるといえる。それには授業にまじめに出席していれば、それで充分であるという気持ちが学生の中にあるのではないか。特に語学修得を大きな柱とする本学部においては、自主的な学習を促すことが、学部としてのこれからの課題といえる。

Ⅱ.学生による教員への授業評価（質問7～19）

質問7 聞きやすい話し方だった（スピー ド・音量・マイクなども含む）

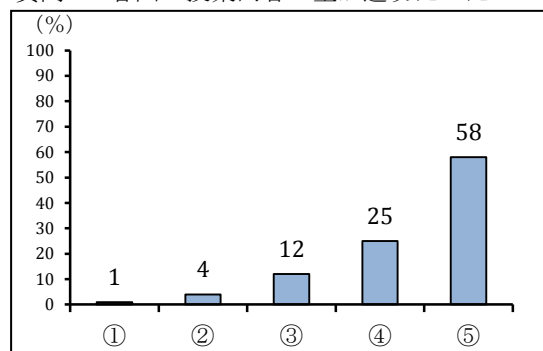
- ①そう思わない
- ②あまりそう思わない
- ③どちらともいえない
- ④そう思う
- ⑤大いにそう思う



質問 8 各回の授業内容の量が適切だった

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

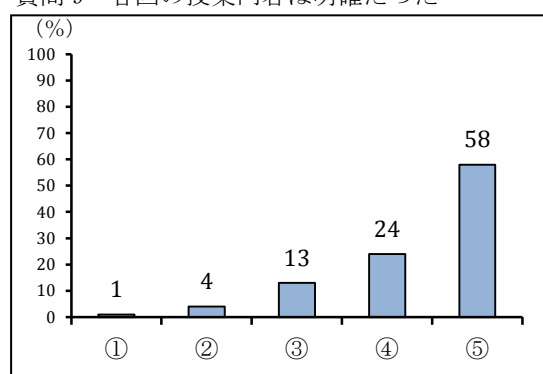
質問 8 各回の授業内容の量が適切だった



質問 9 各回の授業内容は明確だった

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

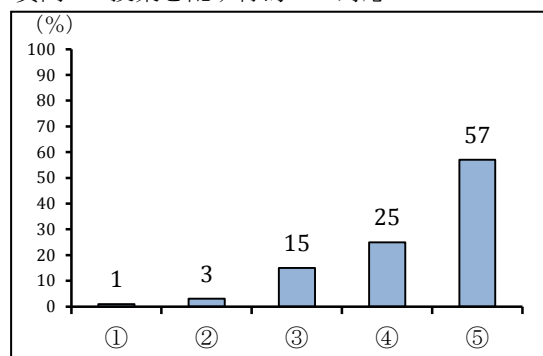
質問 9 各回の授業内容は明確だった



質問 10 教員は授業を乱す行為（私語・携帯電話・メール・居眠り・中座等）に対して適切な対応をした

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

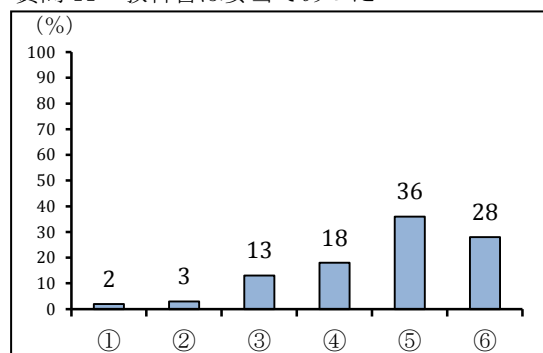
質問 10 授業を乱す行為への対応



質問 11 教科書（難易度・使用頻度など）は妥当であった

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う
- ⑥ 質問がこの授業には該当しない

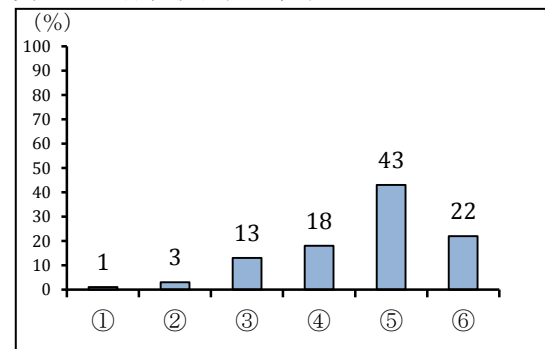
質問 11 教科書は妥当であった



質問 12 補助教材（授業プリント・視聴覚教材）は効果的であった

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いにそう思う
- ⑥ 質問がこの授業には該当しない

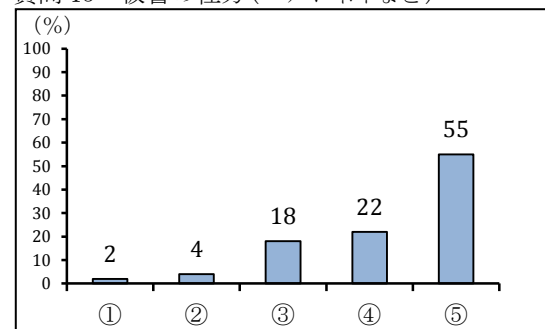
質問 12 補助教科書は効果的であった



質問 13 板書の仕方（あるいはパワーポイントなど）は適切だった

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いにそう思う

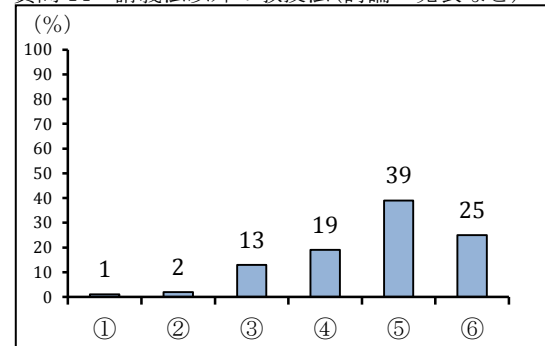
質問 13 板書の仕方（パワーポイントなど）



質問 14 教員は説明中心な講義法以外の教授法（討論・発表など）を必要に応じて適切に用いていた

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いにそう思う
- ⑥ 質問がこの授業には該当しない

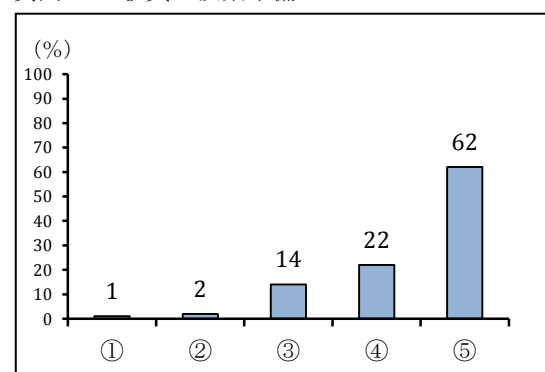
質問 14 講義法以外の教授法（討論・発表など）



質問 15 教員は授業の準備を周到に行っていた

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いにそう思う

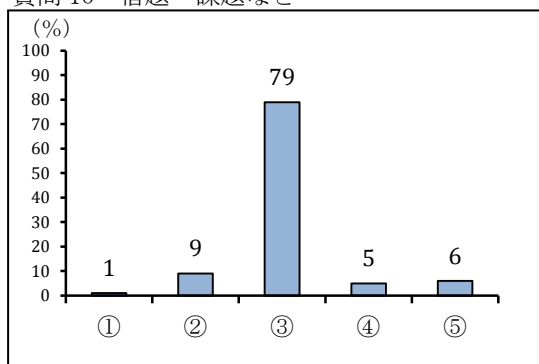
質問 15 教員の授業準備



質問 16 宿題・課題など授業外に必要な学習
の時間や量は適切だったか

- ①多すぎる
- ②すこし多い
- ③適切である
- ④すこし少ない
- ⑤少なすぎる

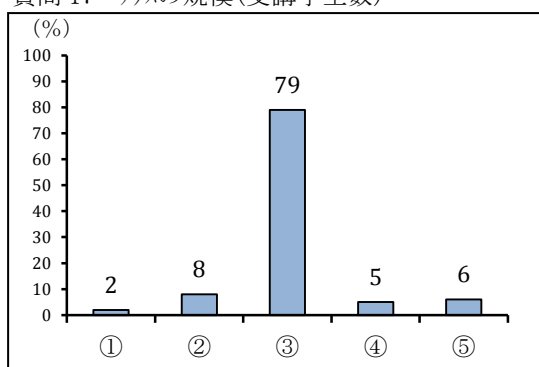
質問 16 宿題・課題など



質問 17 クラスの規模（受講学生数）は適切
だったか

- ①多すぎる
- ②すこし多い
- ③適切である
- ④すこし少ない
- ⑤少なすぎる

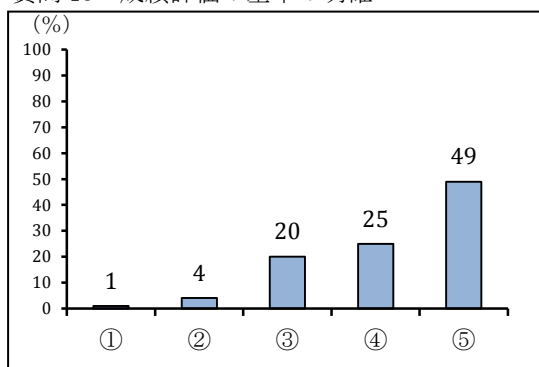
質問 17 クラスの規模(受講学生数)



質問 18 成績評価の基準を明確に示してい
たか

- ①そう思わない
- ②あまりそう思わない
- ③どちらともいえない
- ④そう思う
- ⑤大いにそう思う

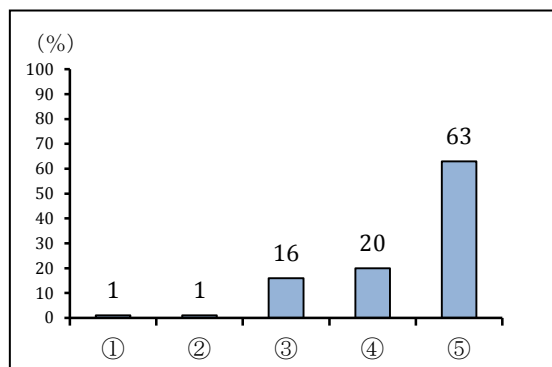
質問 18 成績評価の基準の明確



質問 19 授業実施教室（広さ・明るさ・設備・視聴覚機器の配置）は適切であったか。

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いにそう思う

質問 19 授業実施教室は適切か



このセクションでは狭義の意味での授業評価に関する質問で、教員の指導技術・方法、教育環境などを問うものになっている。質問 7 の「聞きやすい話し方」、質問 8 の「各回の授業内容の量」、質問 9 の「各回の授業内容は明確だったか」、質問 10 の「授業を乱す行為への対応」、質問 13 の「板書の仕方（パワーポイントなど）」、質問 15 の「教員の授業準備」は、80%前後の学生が「⑤大いにそう思う」と「④そう思う」を選んでおり、高評価であるといえる。ここで評価すべきことは、前年度の同じ時期の調査の結果に比べて、どの質問も改善されているところである。またここで述べた質問の項目全てにおいて「⑤大いにそう思う」と「④そう思う」を選ぶ高評価が前年度に比べて1%～4%アップしている。

質問 11 「教科書の妥当性」、質問 12 「補助教材の効果」、質問 14 「その他の教授法の活用」については、過半数以上（54～61%）の学生が好意的な評価（「⑤大いにそう思う」と「④そう思う」）を選んでおり、前年度とほぼ同じ数値であるため、今後、工夫が必要であると考えられる。

質問 16 「宿題・課題などの量」に関しては、79%の学生が「③適切である」としているが、前年度の前期同様に考察が必要と思われる。質問 6 の週平均の授業外の学習時間が少ない結果（「①ほぼ0時間」と「②1時間未満」をあわせて62%）になったので、各教科の担当教員は学生の学力向上にとって、適切な量の課題等を課しているか別に調査し改善策を検討する必要があるといえる。

また、質問 18 の「成績評価の基準の明確さ」に関しては、「⑤大いにそう思う」が49%、「④そう思う」が25%であり決して悪い数値とはいえないが、自立的な学習者の育成という観点から、シラバスへの明記や開講時に学生に周知徹底するなどの努力が必要といえる。しかし、この質問に関しても昨年度の同じ時期のデータに比べると好評価を示したのが合計68%だったのが、今年度は74%となっており、改善傾向にあるといえる。

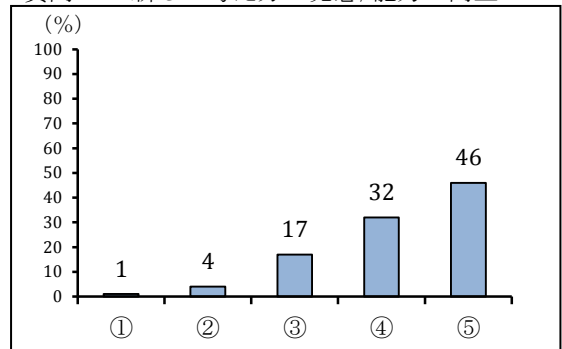
教育環境に対する評価は、質問 17 の「クラスの規模」は79%の学生が「③適切である」と考えており、質問 19 の「授業実施教室の適切さ」は83%の学生が「④そう思う」「⑤大いにそう思う」と回答しており、大きな問題はないように見受けられる。今後も各クラスに適切な学生数配置、適切な教育環境提供に努めていきたい。

Ⅲ.授業を受けて得たもの（質問20～22）

質問 20 新しい考え方・発想を獲得した／今まで
持っていた能力を向上できた

- ①そう思わない
- ②あまりそう思わない
- ③どちらともいえない
- ④そう思う
- ⑤大いにそう思う

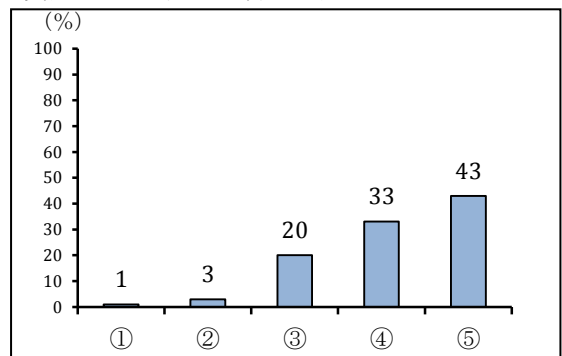
質問 20 新しい考え方・発想/能力の向上



質問 21 授業で扱った分野に関する基本的な専門
知識を得ることができた。

- ①そう思わない
- ②あまりそう思わない
- ③どちらともいえない
- ④そう思う
- ⑤大いにそう思う

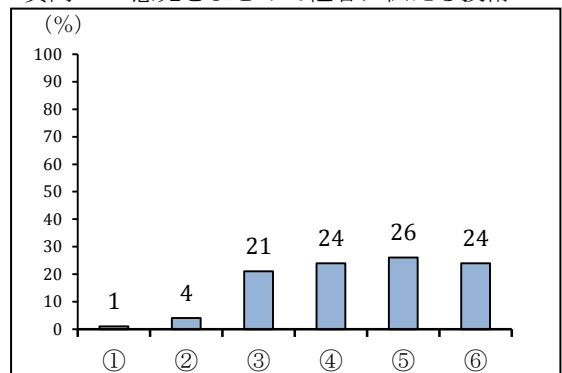
質問 21 基本的な専門知識



質問 22 自分の意見をまとめて他者に伝える技術
(発表・レポート)を得ることができた。

- ①そう思わない
- ②あまりそう思わない
- ③どちらともいえない
- ④そう思う
- ⑤大いにそう思う

質問 22 意見をまとめて他者に伝える技術



学生の達成度に関する質問群は、おおむね高評価といえる。質問20の「新しい考え方・発想／能力の向上」は78%が評価（⑤大いにそう思う、④そう思う）を選んでおり、質問21「基本的な専門知識を得る」が76%となった。しかし、質問22の「意見をまとめて他者に伝える技術」は、肯定的に評価（⑤大いにそう思う、④そう思う）したのは50%に過ぎなかった。これよりまだ意見を伝える技術を十分に得ていないと感じている学生が多いと考えられる。しかし、これらの3つの問いに対し否定的な自己評価は（「①そう思わない」と「②あまりそう思わない」）4～5%と少ない。加えて、この質問群でも前年度のデータより改善傾向にある。質問20、21、22全てにおいて「⑤大い

に「④そう思う」を選んだ学生が4%から6%増えている。前年度のデータからの推移を判断すると、いい傾向にあるといえる。

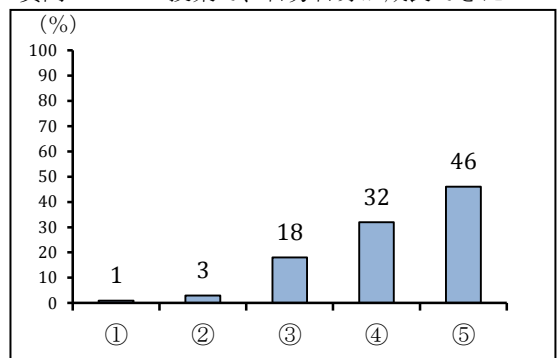
また、「Ⅱ.学生による教員への授業評価（質問7～19）」群での教員への評価で、「⑤大いにそう思う」が50%を上回る質問が6つもあるのに対して、本質問群での「⑤大いにそう思う」の比率が1つも50%を越えない（24%～46%）というのは、結構低いものでないだろうか。学生たちは、教員に高い評価を与えるのに比して、自身の達成度については比較的到低い評価を与えていると言える。これは前年度と同じ傾向を示している。

IV.授業の総合的な評価（質問23～26）

質問 23 この授業をつうじて、自分自身が成長できた

- ①そう思わない
- ②あまりそう思わない
- ③どちらともいえない
- ④そう思う
- ⑤大いにそう思う

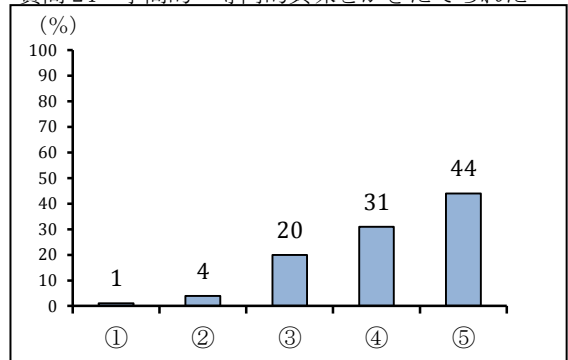
質問 23 この授業で、自分自身が成長できた



質問 24 学問的・専門的興味をかきたてられた

- ①そう思わない
- ②あまりそう思わない
- ③どちらともいえない
- ④そう思う
- ⑤大いにそう思う

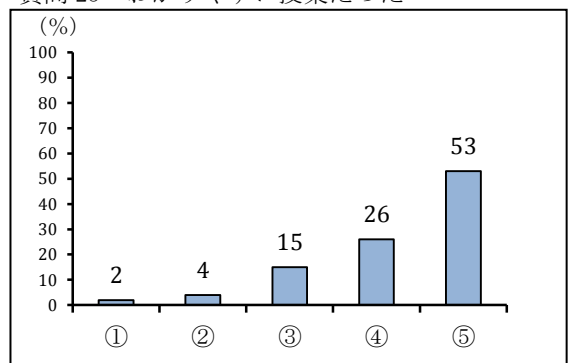
質問 24 学問的・専門的興味をかきたてられた



質問 25 わかりやすい授業だった

- ①そう思わない
- ②あまりそう思わない
- ③どちらともいえない
- ④そう思う
- ⑤大いにそう思う

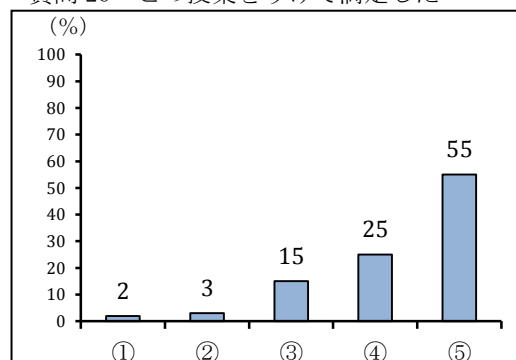
質問 25 わかりやすい授業だった



質問 26 この授業を受けて満足した

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

質問 26 この授業をうけて満足した



授業の総合的な評価においても「セクションⅢの授業を受けて得たもの（質問 20～22）」の分析と似た結果となった。全ての質問に対して「①そう思わない」「②あまりそう思わない」といった否定的な評価は、4～5%と少ない。質問 25 「分かりやすい授業だった」に関しては「⑤大いに思う」という教員への評価が53%で過半数以上で、質問 26 の総合的な満足度も55%の学生が「大いに思う」を選択している。それに比べ、学生の自己評価に関する質問 23 「この授業で、自分自身が成長できた」は46%と低い傾向にある。質問 24 の「学問的・専門的興味をかきたてられた」では「⑤大いに思う」が44%と他の質問の評価よりやや低い。

ここでも学生たちは教員に高い評価を与える傾向があるが、自身の評価に関する質問に対しては低く評価する傾向にある。質問 24 は直接教員の評価ではなく、履修した分野への興味であったが、「大いに思う」を選んだのは44%と他の質問に比べて評価が低かったため、教員は担当する教科を通して、より学生がその分野に興味を持てるように努めるべきであるといえる。

この区分の質問に関しても前年度の同じ時期の評価より高い評価となっている。他の選択肢を選んだのはさほどの違いは見られないが、「大いに思う」を選んだ数は増加した（1～4%）。授業の総合的な評価についても、改善されているといえる。

これまでの調査を総合的に考えると、2014年度に行った結果よりも、わずかではあるがどの区分も改善が見られる。また前年度の傾向と同じく、学生たちは担当教員に高い評価を与え、授業の満足度も高いが、それに比べて授業で得た達成度や自己評価は若干低めであることも分かった。その要因のひとつは今回の調査の結果にもある授業外の学習時間の少ないことが関係していると思われる。授業で満足するだけでは学生自身の達成を感じるまでの評価にはいたらず、授業外の自主的な学習を続ける事により学力が向上する事も考えられる事から、本学部がこれからとり組むべき事は、学生の自主学習を促し、学生自身が高い達成感を得られるように取り組み、支援することと言える。

2 自由記述による評価（改善点を中心に）

自由記述による授業評価は、①授業の良い点、②改善してほしい点、③教員が用意した質問の3つの設問から構成されている。2014年度に新しくなった大きな改善点は、記述スペースを広くした点と、質問29に「教員が用意した質問」を加えた点である。よりよい授業の改善の資料を得ようとする意図がある。教員が自らの質問を用意する。主な質問は、授業内容についての質問である。例えば「この授業を通して得た学び、気づき、発見などについて自由に回答して下さい」や「授業の中での教員の助言、アドバイスその他学生に対する対応は適切でしたか？適切でなかった場合、どのような対応であれば良かったか？」また、教科についての特有な質問「学校フィールドワークは、小学校だけにすべきか？」、「英文法がおもしろいと思うようになりましたか？」、「うちなーぐちについてどう思いましたか？」などの質問があった。このような質問は教える側にとってこれからの教材開発や授業管理に貴重な資料となり得るものであるため、今後、学部側としてもより多くの教員がこの欄を利用するように促したい。

2014年度より学生によるコメントだけでなくアンケートの数値に関しても、教員の応答コメントとともに、学内HPに公開しており、教員にとっては、学生・同僚の目に授業改善アンケートの数値・コメントが公になったので、今まで以上に自分の担当する科目に真摯に教授する姿勢と自然になっていくことと期待する。このシステムは教員による自己管理、授業改善の努力を促すようなシステムになったといえる。

もちろんアカデミックハラスメントなどの対応は、教員の自己管理を超えて、管理職により、またそれに対応する委員会などが迅速に行うものとする。しかし授業改善アンケートの一義的な目的は教員による授業改善の努力を促すものである。

学生からの記述によるコメントの中には、少数ながら教員への礼を失する内容もあり、誹謗中傷にあたるものに関しては、企画推進課および学部長・学科長の判断で公での公開は取りやめたものもある。しかし、学生からのコメントが安易な中傷目的ではなく、複数から寄せられるネガティブなコメントについては、直接学部長や学科長に報告され、教員とミーティングを持ち、改善策や反省点などを話し合うことになった。この方法はコメントによって教員を傷つけるのではなく、改善を第一に考えた手順である。今回の調査では、学部長や学科長が対応すべき批評を受けた教員はまだ無く、これからもこのような取り組みを通して、更なる改善の努力を続ける。

公開される本冊子においては、教員名は教員コードに書き変えてある。個々の記述内容、および教員の改善に向けてのコメントは、第2章に掲載してある教員と学生との対話をご確認いただきたい。

おわりに

「授業評価の概要」でアンケート数値から推測できる本学部の課題については述べたので、ここでは、今回で2年目になる新しい授業改善アンケートの実施に関して数点の評価と課題をあげるとする。

まず、前年度に比べ、リニューアルの理念、趣旨を教員及び学生に周知徹底が出来たと思われる。初年度は、教員からのコメント回収が遅れ、学内HPにおける学生への結果公開（リプライ）が大幅に遅れた。しかし、今回は、学生の授業評価に対する教員コメントがスムーズに行われ、ほぼ100%に近い確率で回答がなされた。それにより、学生への公開も前回に比べ、早く行うことができた。これらは、新アンケートの趣旨が理解され、浸透してきた結果だと思われる。

教員からの学生への回答も多少は期間を要するが、学生が評価、またはコメントした内容が教員にどのように伝わり、回答されるは、コメントを残した学生にとって大切なことであり、迅速で適切な対応は学生のモチベーションを上げるものとなるので、今後もシステムを浸透させ効率よくアンケートを実施、公開するよう努める。

さらに、この改善されたアンケートの数値を、より有効的に分析する方法を思索し、この貴重な情報を最大限に活かすようにしなければならない。前年度に挙げられたクラスターごと、クラスごとのデータを比べる分析方法に関しては、必修科目と選択科目の比較や授業形態の異なる教科の比較は果たして有効か、という疑問も残ることから実現は未だしていない。今後はこのアンケート調査の結果を有意義な情報にするために、効果的なデータ分析方法を考え、またその情報も公開出来るように企画推進課と連携して行きたい。またリニューアルされた授業改善アンケートが、個々の教員の授業改善の材料となり、学部の教育力の向上に繋がり、学生の修学へのモチベーションをあげるヒントになればと思う。

沖縄キリスト教学院大学 授業改善アンケート

このアンケートは、沖縄キリスト教学院大学の授業を改善し、さらに充実させることを目的に行われます。アンケートは、適切に処理されたうえで各教員に配布され、各教員が生データを見ることはありませんので、あなたの成績評価に影響することはありません。大学を構成する重要な一員である学生として、皆さん自身が大学教育をより良いものにするという意識のもとに、率直かつ責任を持って回答して下さい。集計されたデータは、本学 HP で公表され、全学生・教職員が確認できます。また、教員からの全般的な応答も確認できます。他の学生の授業履修の参考材料にもなりますので責任を持った記述をお願いします。

<履修動機についての質問>

質問 1 この授業を履修した動機を最も適切なものを3つ選択して下さい。	選択肢	
①授業内容に関心があったから	1	2
②教員に魅力があったから	3	4
③単位がとりやすそうだから	5	6
④友だちが多く履修しているから	7	8
⑤自分の専門に関係が深い分野だから	9	10
⑥幅広い教養を身につけるため		
⑦先輩に勧められたから		
⑧希望授業が取れなかったので仕方なく		
⑨必修（あるいは免許取得に必要）だから		
⑩その他		

<数値による評価>

以下の項目に対して、あなたにとって5段階のどの評価であるか、評価欄のあてはまる数字に○をつけて下さい。

- ①そう思わない ②あまりそう思わない ③どちらともいえない ④そう思う ⑤大いにそう思う
⑥質問がこの授業には該当しない

I この授業へのあなたの取り組みについて、以下の項目にどの程度当てはまりますか。	評価欄
質問 2 授業全体を通じての欠席回数は何回くらいですか ①4回以上 ②3回 ③2回 ④1回 ⑤皆出席	1 2 3 4 5
質問 3 私語・居眠りなどせずに真面目に授業に参加した	1 2 3 4 5
質問 4 この授業の履修にあたって十分な準備ができていた（どのような授業か調べて履修したか、自分の学力レベルにあっているかを確認したか、など）	1 2 3 4 5
質問 5 授業をきっかけにして自分自身で発展的な学習をした	1 2 3 4 5
質問 6 この授業に関連して、授業時以外に学習した時間（平均して1週間で） ①ほぼ0時間 ②1時間未満 ③1～2時間 ④2～3時間 ⑤3時間以上	1 2 3 4 5

II この授業の進め方などに関連して、以下の項目にどの程度当てはまりますか。	評価欄
質問 7 聞きやすい話し方だった（スピード・音量・マイクなども含む）	1 2 3 4 5
質問 8 各回の授業内容の量が適切だった	1 2 3 4 5
質問 9 各回の授業内容は明確だった	1 2 3 4 5
質問 10 教員は授業を乱す行為（私語・携帯電話・メール・居眠り・中座等）に対して適切な対応をした	1 2 3 4 5
質問 11 教科書（難易度・使用頻度など）は妥当であった	1 2 3 4 5 6
質問 12 補助教材（授業プリント・視聴覚教材）は効果的であった	1 2 3 4 5 6
質問 13 板書の仕方（あるいはパワーポイントなど）は適切だった	1 2 3 4 5
質問 14 教員は説明中心な講義法以外の教授法（討論・発表など）を必要に応じて適切に用いていた	1 2 3 4 5 6
質問 15 教員は授業の準備を周到に行っていた	1 2 3 4 5
質問 16 宿題・課題など授業外に必要な学習の時間や量は適切だったか ①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる	1 2 3 4 5
質問 17 クラスの規模（受講学生数）は適切だったか ①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる	1 2 3 4 5
質問 18 成績評価の基準を明確に示していたか	1 2 3 4 5
質問 19 授業実施教室（広さ・明るさ・設備・視聴覚機器の配置）は適切であったか	1 2 3 4 5

Ⅲ この授業からあなたは次のものを得ることができたと思いますか。	評価欄
質問 20 新しい考え方・発想を獲得した／今まで持っていた能力を向上できた	1 2 3 4 5
質問 21 授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1 2 3 4 5
質問 22 自分の意見をまとめて他者に伝える技術（発表・レポート）	1 2 3 4 5 6

Ⅳ 総合的に見て、この授業は以下の項目にどの程度あてはまりますか。	評価欄
質問 23 この授業を通じて、自分自身が成長できた	1 2 3 4 5
質問 24 学問的・専門的興味をかきたてられた	1 2 3 4 5
質問 25 わかりやすい授業だった	1 2 3 4 5
質問 26 この授業を受けて満足した	1 2 3 4 5

<記述による評価>

みなさん自身が授業をより良いものにするという意識のもと、率直かつ責任を持って記入して下さい。みなさんの回答は、教員が読み、授業改善の参考にします。無責任な誹謗中傷は厳に慎み、真摯な回答をお願いします。もちろん成績にはいっさい影響しません。

質問 27 この授業で良いと思ったことがあれば書いて下さい。

質問 28 この授業で改善すべきだと思った点があれば、実現可能な改善案を具体的に書いて下さい。

質問 29 教員が用意した質問【 】

科目名： _____ 学籍番号： _____ 学年 _____ 性別（男 女） 入試区分（一般 推薦 AO） _____